

平成 29 年度第 1 回北区文化財保護審議会 審議要旨

日時：平成 29 年 12 月 11 日（月）10 時～時 11 時 42 分

場所：北区飛鳥山博物館講堂

【出席者】

<委員>加藤会長、石川副会長、佐野委員、塩澤委員、根崎委員、山崎委員

<事務局>田草川教育振興部長、山本飛鳥山博物館長、鈴木事業係長、牛山学芸員、山口学芸員、田中学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
(1) 北区指定有形民俗文化財「十条富士塚」の現状変更について
4. その他 次回審議会の日程等
5. 閉会 教育委員会挨拶

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
(1) 北区指定有形民俗文化財「十条富士塚」の現状変更について

○事務局 一資料説明一

○委員

富士塚は、信仰の講のためにある構築物なので、講の方々がどのように考えているのかが最重要だと思う。二案それぞれについて講の方々の意見はどうか。もう一つ、塚左側に予定されている施設は名称を富士講伝承館とか、講を持続するために必要な資料を残していくための施設だという名前をつけてはどうか。富士塚と、富士講という信仰習俗を残していく、ハードとソフト、二つの側面を結びつける考え方が大事ではないかと考える。

○事務局

それぞれの案につき、講の方からは、どちらを特に望んでいるということにはなかった。施設については、地域の方々への理解を今以上に進めていきたいということで、富士塚、富士講、富士信仰などについて、パネルやしつらえのようなものをしていきたいと伺っている。

○委員

保存施設というだけではなくて、常日ごろ、その理解を図るための展示的な要素ももつ施設を考えているのか。

○事務局

詳細は伺っていないが、伝えていきたいという意思はかなり強い。教育委員会からもアドバイスし、より理解を得やすいような展示や紹介の仕方など協力をしていきたい。

○委員

道路の計画線内だけではなくて、計画線外の、西側の富士塚の範囲全てを埋蔵文化財調査対象とすることについては、問題はないか。

○事務局

計画線外であっても、埋蔵文化財包蔵地の範囲内にあるので、ここで土木工事等が行われるということになれば、文化財保護法の手続が必要になるし、下に残されている埋蔵文化財に影響があるということになれば、調査が必要になる。

○会長

現状の富士塚の表面部分の調査はどうなるか。

○事務局

古墳の調査の前に表面部分の調査をする形で、東京都と詳細を詰めていく。

○委員

古墳の調査にまで調査が進んだ時点で、富士塚自身は一度、現状が失われる状況になるか。

○事務局

調査の手順として、上に乗っている富士塚の構築物を一度のける必要がある。一旦、塚の上から別の場所に置かれて、古墳の調査の後にまたしかるべき場所へと戻していくという形になるかと思う。

○委員

富士塚を含めて一連の埋蔵文化財の調査はどれぐらいの期間を要すると想定されるのか。

○事務局

東京都の教育委員会が担当となり、東京都の埋蔵文化財センターが調査に入るので、私のほうで具体的な期間まではお答えしづらい。だがかなり時間はかかると思う。

○委員

半年まではかからなくても3カ月程度は見込んでおいたほうよいかと思う。

○委員

塚の現状は、本来の形のものではない。既にこれまで何度も改修が行われた歴史があるので、埋蔵文化財調査をする中で、塚の歴史を検討するデータをきちっととってほしい。調査することで、現在の富士塚の理解が深まる、そういう面も持っている。プラスの意味を付加するという面を特に強調して、調査計画の中に盛り込んでいただきたい。

○委員

現状に近い形の復元なのか、あるいは、安全性に配慮した大幅な変更を伴う復元になるのか。

○事務局

躯体部の構造については、RC構造物が入る。富士塚の特徴が残っている前面部分の移築に関しては、現状の富士塚と同じ外観を保つよう進めていただきたいと東京都と話をしている。

○委員

塚自身を将来にわたって保存できるよう、強化した形での現状変更、塚の復元をやるべきだが、本体がコンクリートの、全く別物になってしまうことには違和感がある。塚としての復元の方法があると思うので、古墳等の復元例を参考に、工法には再検討が必要である。

○委員

現状と同じような形に石碑を戻そうとしたときに、入らなかったものをどうする計画なのか。溶岩についてもどうか。

○事務局

現状に入らない石碑や溶岩は、廃棄せず、富士塚に配置をすると聞いている。具体的な配置場所は決まっていないが、現況が残っているところを無理やり変えてそこに置くような形ではなく、塚の範囲内のどこかに配置すると伺っている。

○委員

今回の現状変更は、地元からのさまざまな要素、道路の拡幅、構築物の劣化だとか、いろいろな問題に、地元の人に対応した上でのお願いだということが重要だと思う。十条富士講の方々の考え方、これからも富士講を残したい、そのために富士塚が必要だという願いがある。これを機会に講や地域の人たちに呼びかけて関係資料を集め、講を伝承するための資料館に展示してアピールする必要がある。富士塚とこの保存・展示施設、このセットを考えると、ある意味で現状維持以上に平成のプラスアルファであり、それは富士講の人たちの希望に対応したものだというのが、委員会としてはよいのではないかと。

○委員

雨漏りしそうな非常に危険なあの消防小屋から、ちゃんとした鉄筋コンクリートの施設で道具類を保管するのはいいことだと思う。

○委員

富士塚なので、富士山という景観、形がより反映されている第2案の方が見えがかりという点からもよいのではないか。

○委員

案2案の場合、左側のはみ出た部分をできるだけ現状を維持する形で圧縮してはどうか。

○事務局

現況の富士塚で、残せる範囲からはみ出る場所はあまり黒ボク等が残っていない状況であり、逆に、圧縮という方法を考える余地がかなり残っている。提案していく。

○委員

第2案の欠点は、左側が切られてしまうので富士山の形が非常に不自然な形になってしまうこと。できるだけ左側があるように見える石碑や溶岩のバランスを工夫するように。

○委員

塚の南側が切られて、すぐまた鉄筋コンクリートの建物が隣にあるということに非常に違和感を持つ。施設と塚の間に樹木系の何らかカーテン状の措置をすることによって、塚が樹木の中に消えていくようなイメージが工夫できるのではないか。

○委員

これは移築とっていいのかどうか、名称も問題になっている。現状変更なので、移築とは違う。移築という名称はやめたほうがいい。

○委員

今回は現状変更で対応するということだが、そのための議論について確認しておきたい。

○委員

最終責任は教育委員会かとは思いますが、方向性や基本的な考え方は審議会が決めておかないといけない。審議会の意見を超えて教育委員会が扱いを変えるということはあってはならない。そもそも、指定解除を検討しなければいけないという危惧が議論のスタートであり、議論した結果、現状変更し、指定解除はしない。次は、どうやったらその現状変更と私たちが理解できる範囲におさめることができるかの議論だと思う。

4. その他 次回審議会の日程等

5. 閉会 教育委員会挨拶